

コムソフィア賞受賞者一覧

第1回（1991年）	故江畑謙介氏（1973理機）	湾岸戦争でメディア通じ優れた軍事情報分析報道を行った
第2回（1992年）	石澤良昭氏（1961外仏）	世界的遺産であるアンコール遺跡に長年の調査研究保存に尽くされた（上智大学外国語学部教授。元上智大学学長）
第3回（1993年）	故中村又蔵氏（1957文新）	日本の伝統芸能である歌舞伎を自演（歌舞伎俳優）活動で世界に紹介
第3回（1993年）	藤井絢子氏（1969文史）	琵琶湖の水を守る環境生活協同組合を創設し、地域環境保全に活躍し、環境教育の啓蒙に努力した
第4回（1994年）	竹井清氏（1971外西）	海外青年協力隊員としてアフリカに赴き、酋長に任命されるなど国際貢献に尽力
第5回（1995年）	清水信一氏（1971文新）	神戸新聞社社会部次長として阪神淡路大震災後の困難な状況の下での報道に当たった
第6回（1996年）	横川和夫氏（1960文新）	入社以来36年間、社会部記者として優れた企画取材を行った。共同通信社編集委員兼論説委員
第7回（1997年）	藤田和芳氏（1970法法）	有機農産物宅配システムの構築と市民運動を続ける。「大地を守る会」会長として国産農業生産物の育成に活躍した
第8回（1998年）	マリ・クリスティーン氏（1979比文）	タレントとして国際的にも多方面で活躍
第8回（1998年）	故早川正一氏（1950専新）	オペラを通じて国際的な文化活動（特に日中交流）を行う。また若いオペラ歌手育成に努めた
第9回（1999年）	諸田玲子氏（1976文英）	作家として新しい時代小説を切り開く
第9回（1999年）	ディビット・シャピロ氏（1981外比）	長年相撲報道（英文）で健筆を振るう
第10回（2000年）	細川佳代子氏（1966文英）	「スペシャルオリンピックス日本」を創設し、内外に推進活動を展開した
第11回（2001年）	鳴海廣氏（1959文新）	青森県で「ジャズで村おこし」に力を尽くされた
第12回（2002年）	松村裕幸氏（1970外ポ）	WFP（世界食糧計画）で18年間飢餓と貧困のアフリカ各地で渾身の力をこめて活動した
第12回（2002年）	大西健丞氏（1991文新）	国際的に通用する援助団体NGO「ピースウインズ」を立上げ活動中。NGOピースウインズ・ジャパン代表
第13回（2003年）	水谷修氏（1982文哲）	「夜回り先生」として若者の薬物汚染と命がけで闘った。横浜市立戸塚高校定時制教諭（当時）

コムソフィア賞受賞者一覧

第13回 (2003年)	ベンジャミン・フルフォード氏 (1985外比)	一般紙が報道しできない日本の不良債権とヤクザの関係に鋭い論陣を張ったForbes誌アジア太平洋支局長 (当時)
第13回 (2003年) (第1回濱口賞新設)	小澤征良氏 (1996比文)	感性あふれるエッセイ『おわらない夏』を著し、今後の新しい作品を期待
第14回 (2004年)	故石井恭一氏 (1948経経)	戦後、戦争孤児のために仙台に光が丘天使園を創設し、児童福祉に力をつくした。社会福祉法人ラサール会理事長
第14回 (2004年)	朝間義隆氏 (1965文英)	「男はつらいよ」など山田洋次監督のシナリオを長年担当して映画文化の向上につくした脚本家で松竹監督
第15回 (2005年)	故佐島直子氏 (1978法法)	安全保障に関わる国際情勢、法制度、経済、戦史などを網羅的に概説する日本で初めての『現代安全保障辞典』を編集。専修大学経済学部助教授
第16回 (2006年)	神田裕氏 (1987神神)	阪神淡路大震災以後日本における「市民ジャーナリズム」の嚆矢とされる多言語FM放送による新たな援助方法の確立と11年におよぶ熱心な地域活動の継続が評価された
第16回 (2006年) (特別賞)	ケビン・ショート氏 (国際学部)	今日地球規模で環境が叫ばれているが、日本人がともすれば忘れていた伝統的な里山の普遍的価値を再発見し、カントリーサイド (英語に翻訳) と名付け、里山保存と環境教育の普及を精力的に全国展開している
第17回 (2007年)	安藤優子氏 (上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)	従来のニュース報道にない新しい視点を開拓したフリーのテレビ・キャスターを務めた
第18回 (2008年)	新井満氏 (1970法法)	日本だけでなく世界の人々までも歌われるようになった「千の風になって」訳詩歌の創作活動とその成果で社会に貢献した
第19回 (2009年)	山田五郎氏 (1982文新)	長年、編集者として活躍し、世界を席卷するネオ・ジャポニズムのコメンテーターとして卓抜な評論活動を展開してきた
第20回 (2010年)	鳥飼玖美子氏 (1969外西)	同時通訳の草分けの一人として若くして国際舞台で活躍。現在、日本における早期英語教育に強い危惧を表明し確かな教育論を展開中
第20回 (2010年) (特別賞)	本田哲郎氏 (1965文哲)	40代の若さでフランシスコ会の日本管区長就任。その後大阪・釜ヶ崎に居を移し、日雇い労働者たちの労苦に耳を傾け、聖書に新しい視点を当てたとして注目された
第21回 (2011年)	鮎川ゆりか氏 (1971外英)	早くから地震の多い日本には原発は不要と訴え『プルトニウム燃料産業～その影響と危険性』の翻訳や地球温暖化問題に言及した国際環境NGOでの活動が評価された
第22回 (2012年)	我謝京子氏 (1987外西)	「女性が世界をかえる時代」という流れの中、女性の視点でドキュメンタリー映画を制作、その映画を通して国際的なメディア活動をされていることが高く評価された

コムソフィア賞受賞者一覧

第22回 (2012年) (特別賞)	三森ゆりか氏 (1981外独)	母語の大切さ、思考力の重要さを分かりやすく指導し、Jリーグの海外移籍選手向けの事前研修を担当するなど、コミュニケーションを通じた社会貢献が評価された
第22回 (2012年) (濱口賞)	信長貴富氏 (1994文教)	「NHK全国学校音楽コンクール (通称Nコン)」など多くの実績とともに、時代に合った作曲家として今後の益々の活躍が期待できると評価された
第23回 (2013年)	嶋浩一郎氏 (1993法法)	出版不況といわれる今日、「本屋大賞」という新風をおこし、推進して10年。街の文化の灯・本屋さんの活性化に貢献。雑誌編集や新しい書店経営にも挑戦している
第23回 (2013年) (特別賞)	塩塚博氏 (1979経経)	日本の鉄道駅の発車メロディー (駅メロ) を多数作曲。駅メロは、昇降客の駅での安全を喚起し、環境音楽としても大いに役立っている。世界でも珍しい「駅メロ」の本も出版
第23回 (2013年) (特別賞)	鐸木能光氏 (1978外英)	福島原発に自宅で被災、その経験をもとに『裸のフクシマ原発から30キロ圏内で暮らす』を著し、従来のメディアにない視点で今の日本社会に警告を発しているのが評価された
第24回 (2014年)	師岡文男氏 (1976文史)	日本でのフライイングディスク競技の普及に努力する一方、この競技を通じてワールドワイドに人的ネットワークを構築。この人的ネットが2020年東京オリンピック・パラリンピック東京招致成功のメディア対策に貢献した
第24回 (2014年) (濱口賞)	安田菜津紀氏 (2010総教)	フォトジャーナリストとして常に写真の力と人を信じ、ファインダーを通して今の世界と日本を記録している。その若いフォトジャーナリストの鋭く暖かい眼に期待する
第25回 (2016年)	植木千可子氏 (1983院国際関係)	国は集団自衛権の行使を容認し、世界で自衛隊の軍事力行使の基準を緩和した。集団的自衛権の容認は何をもたらすのか？現下の火急の問題に長年わたる世界の安全保障研究成果が、国民必読の著書『平和のための戦争論—集団的自衛権は何をもたらすのか？』に結実した
第25回 (2016年)	孔健氏 (1996院新聞)	中国との対話は、今や日本のみならず世界各国の課題である。「週刊チャイニーズドラゴン」を創刊し、さらに多くのメディアを通じて日中対話ヘジャーナリストとして努力をされてきた
第25回 (2016年)	石川えり氏 (1999法国関法)	難民問題に学生時代から関心を寄せ、卒業後も難民支援協会に属し、日本における難民問題解決に長年努力されてきた。さらに国会にも働きかけ日本初の難民認定関連法案改正にも貢献された
第26回 (2017年)	澤田康彦氏 (1982外仏)	平凡出版 (現・マガジンハウス)、「BRUTUS」「Tarzan」「平凡パンチ」「ポパイ」などの編集や映画のプロデュースなど多方面で活躍。2015年「暮しの手帖」社に招かれ編集長に就任。70年続くブランドの“暮し第一の誠実な雑誌作り”を継承しつつ、新しい企画を立ち上げ評判を呼ぶ。伝統を守りながらも新しい感覚を取り入れる姿勢と長年出版界先端での意欲的な活動が評価された
第27回 (2018年)	道傳愛子氏 (1988年外英)	長年東南アジアをはじめとする国際報道の現場を取材してきた確かなジャーナリストの眼は、ノーベル平和賞を最年少で受賞したマララ・ユスフザイの自伝『マララ - 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女』の翻訳に結実。上智大学の理念を体現し活躍するジャーナリストとして評価された